

チャにおけるカンザワハダニのスピロメシフェンに対する感受性					
[要約] 2017 年に唐津市と嬉野市から採集した <u>カンザワハダニのスピロメシフェン</u> （商品名 <u>ダニゲッター - フロアブル</u> ）に対する <u>感受性</u> は高い。					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当		連絡先	TEL:0954-42-0066 E-mail:chagyoushiken@pref.saga.lg.jp		
部会名	茶業専門部会	専門	栽培	対象	茶

[背景・ねらい]

茶の経営にとって一番茶は大きなウエイトを占めるため、越冬期のハダニ防除は重要な位置づけとなる。これまで主として使用してきたスピロメシフェン水和剤（商品名ダニゲッターフロアブル）は、防除効果が低下しており薬剤の変更が必要という意見がある。一方で、米国、EU、台湾などへの輸出にも対応できる農薬のため、一番茶前の越冬ハダニの防除薬剤として継続して使用していきたいとの要望がある。そこで、感受性低下が懸念される現地茶園から採集したカンザワハダニを用い、スピロメシフェンに対する感受性を明らかにする。

[成果の内容]

1. 2017 年に唐津市と嬉野市の 8 圃場から採集したカンザワハダニのスピロメシフェンに対する感受性を検定した結果、補正死亡率は 1 圃場で 100%、他の 7 圃場も 95%以上と感受性は高い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内のカンザワハダニ防除に活用できる。
2. 茶におけるスピロメシフェンの使用は年に 1 回であるため、前回の使用から 1 年程度経過してからの検定である。
3. カンザワハダニは葉裏に寄生しているため、薬剤散布を行う場合は葉裏まで薬液がかかるように十分量を散布する。
4. スピロメシフェンの効果の低下がみられたら他剤へ変更する。

[具体的なデータ]

表1 現地茶園で採集したカンザワハダニのスピロメシフェンに対する感受性^{a)} (2017)

採集地	圃場	採集時期 (2017)	越冬ハダニ 防除の前後	スピロメシフェン の希釈倍数 ^{b)}	補正死亡率(%) ^{c)}
唐津市	A	3月21日	前	6,000倍	96
	B	3月21日	前	6,000倍	97
嬉野市	C	3月3日	前	6,000倍	98
	D	3月3日	前	6,000倍	99
	E	3月3日	前	6,000倍	97
	F	3月3日	前	6,000倍	100
	G	3月3日	前	6,000倍	97
	H	3月3日	前	6,000倍	97
参考 (茶試)	I	3月22日	前	6,000倍	100
	J	3月22日	前	6,000倍	100
	K	3月22日	前	6,000倍	99
	L	3月22日	前	6,000倍	100

a) 検定方法：各圃場において採集したカンザワハダニをインゲン葉上で累代飼育した後、雌成虫をシャーレ内に静置したインゲン葉に接種して、25℃、16時間日長条件下で産卵を促した。接種3日後に雌成虫を除去して、卵のみとしたインゲン葉を薬液に10秒間浸漬して風乾させ、同じ条件下で7日間保持した。

b) 希釈倍数：常用濃度の1/3希釈薬液を用いて検定した。

c) 浸漬7日後に実体顕微鏡下で孵化、生存状況を調査して生存率を求め、さらに、対照である水浸漬区の生存率をもとに Abotto の補正式で補正死亡率を算出した。補正死亡率(%) = {(水処理区の生存率 - 処理区の生存率) / 水処理区の生存率} × 100

[その他]

研究課題名：チャトゲコナジラミ等に対応した効率的な防除体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年

研究担当者：東島敏彦・高木智成・中村典義